



おかむら通信第 93 号

平成 25 年 1 月

皆様、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。昨年は、大変辛く苦しく、とても我慢を強いられる年でありましたね。今年も、まだまだ全国で同じ状況の方々が多く存在し続けるでしょう。鈍感になってしまったこの国に対して私の知り合いのある海外のドクターは「日本人は素晴らしい。あれほどの災害にあいながら耐えて規律を守っている。感動した。」と言っています。本当のところはどうでしょう？自分だけよければ良いのでしょうか？ 弱い立場の方々に思いを馳せる能力はどこにいつてしまったのでしょうか？ 自ら考え、判断し、調べ、行動する、人任せにしない。他人を思いやる心を大事にしようではありませんか？

院長 より



① 海外で旅をして感じたこと

前文でお話しましたが、今まで世界各国 15 カ国以上をめぐりたくさんのドクターに会ってきました。現場の凄まじい医療の有様に遭遇したり、患者、看護師、子供を含めて地域の人々に接する機会をいただきました。この 10 数年のうちに私が変わってきているのを感じずるようになりました。世界から日本を冷静に見る、偏見を突き抜けて一地球人として世界を、この国を見る目が芽生えたのだと思います。

② もう一つ

どの仕事でも、生き方でもそうですが、物事を判断するのに、こういう言い方があります。First to go, second to know 見もしないで判断しないこと、まず行って見てきなさい。そこからなにごととも始まるのです。最近、私の友人も、偉い人も、周りの方も、そういう方が多いと感じています。話が通じにくいのです。

③ 自覚症状と病気の関係について

当院にはじめて通院される方々の中に、「症状がない」例えばお腹はなんともない、症状がない、従って血圧の薬はいらない、糖尿の薬もいらない、治療する必要はない、と主張される方がなぜか増えてきました。なるべく薬は少なくして自分の生活環境や食事を改善すれば良いのですが、自覚症状がないことと、病気の発症・進行・悪化とはつながりません。われわれがすべきことは症状がないときに病気やその進行を予測し発見することであり、そうすることによって患者さんの生命が危険領域から遠ざかるようになるのです。





④ お願いとごめんなさい

最近、少しずつ、より重症な患者さんが増えてきています。循環器系、呼吸器系、消化器の他、精神疾患が増えていきます。早期の診断、早めの治療、早めの病状の回復に尽力させていただいています。みなさまのお仕事などの環境上、入院を好まれず外来での治療を望まれる方が多いのも現実です。よって患者さんの人数の割に時間がかかっております。どうかご容赦くださいませ。

12月の活動紹介

- 12/01 (土) 順天堂大学、全外科の忘年会 (外科の現況と医療連携について)
- /05 (水) 他業種との懇談会
- /06 (木) 松戸市立病院の世話人会と勉強会開催 (脳外科疾患について)
- /07 (金) 松戸市医師会にて 他業種 (行政、議員など) と懇談
- /09 (日) 松戸市小児夜間急病診療所 当直
- /12 (水) 松戸市医師会ホームページ委員会
- /14 (金) 松戸市医師会総務委員会にて 会員のIT利用について
- /15 (土) 順天堂大学第1外科忘年会/ 民間病院長との懇談
- /16 (日) 児童養護施設晴香園にて 子供達と懇談会
- /17 (月) NTTDMCS と千葉県ITネットについて
- /18 (火) 松戸市医師会定例理事会 EMI ネットから画期的なITネットへ
- /21 (金) Mr.Sanjay と懇談 海外の医療の現実について

追記:

現在、院長の海外ドクア・ツア-が待合室に掲示されていますが、いま ABB'CDのうち最終のDまで進んでいます。イタリア、ミゼルコルデイアの医療団の患者さんに対する考え方・姿勢もご覧下さい。



皆さん年末年始はどのように過ごされましたか?

年末は大そうじ、おせち(?)の準備、年始には不公ア神社に初詣に行きおみくじを引いたら中吉♪
良い年になるよう願ってきました。

皆様にとって今年一年健康で"幸せな年"となりますようお祈り申し上げます。

担当: 伊藤

